



2023-2026 中期経営計画 MP2026

～アルファビジョン2030 1st Stage～

証券コード 3434

東京証券取引所 スタンダード市場上場

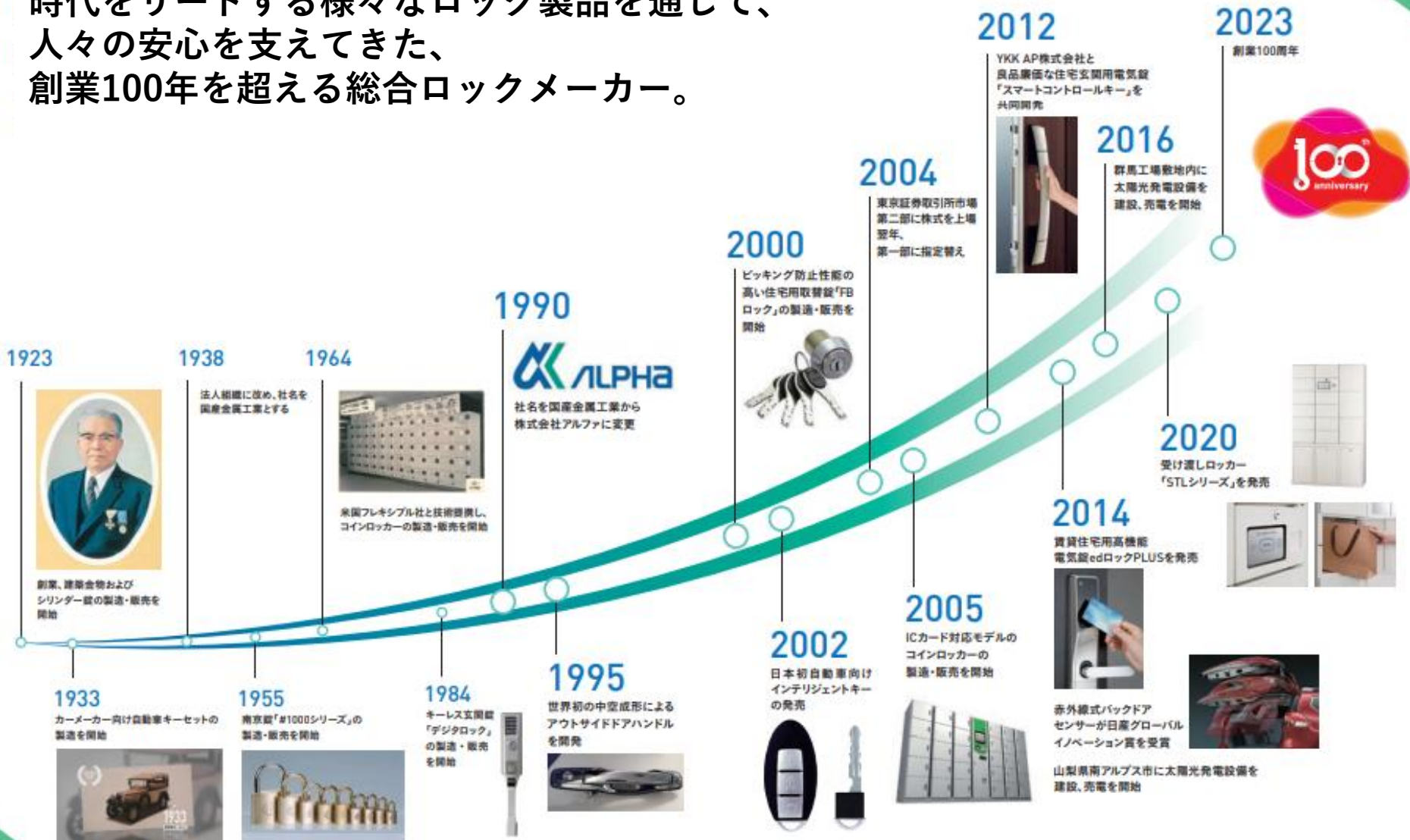
2023年8月25日

株式会社 **アルファ**

1. 事業内容と強み（期待・戦略）
2. 新中期経営計画 MP2026（具体）
3. 会社概要
4. 株式関連情報

参考資料：2019-2022中期経営計画総括

時代をリードする様々なロック製品を通じて、
人々の安心を支えてきた、
創業100年を超える総合ロックメーカー。





**世界の巡りを
良くしよう。**

住まいをロックできれば、
人は心置きなく街に繰り出せる。

自動車をロックできれば、
たった一人でも、見知らぬ土地を行ける。

人と人の間にロッカーがあれば、
思いは、別の誰かに届くことができる。

世界初の安心を私たちが生みだしてきたのは、
この世界を、もっと動きのある場所にするためだ。

さあ、発明しよう。
100年前の人々が、思いもよらなかった安心を。

さあ、世界の巡りを良くしよう。
次の100年が、どの時代よりも躍動するように。

新しい動き方を、
この社会に届けるのが、私たちの使命。

ALPHA 100 anniversary

創業100年と、その先の未来に寄せて。

自動車や駅のロッカー、そして住宅は、
人々の移動の拠点となる場所です。

その拠点が安心な場所であればこそ、
人やモノは心置きなく自由に動くことができます。

私たちが提供するロックシステムの安心は、
100年前から、そして100年後も、
世界中の人とモノが動き続けるために
欠かすことのできないものだ、
という自負を言葉にしました。

次の100年へと“つなぐ” 新たな挑戦を推し進める。

「ALPHA 100年宣言」のもと、新たな挑戦を開始。

私たちは創業以来、「理念経営」の実践、すなわち「ALPHA WAY」の追求を行ってまいりました。経営理念「個々の質を高め、お客様に喜ばれる価値を創造・提供します」が示す通り、「ALPHA WAY」の追求はサステナビリティへの取り組みであると認識しております。この認識のもと、私たちは今後、「ALPHA WAYの追求＝サステナビリティ経営の推進」によって、事業リスクの最小化と事業機会の拡大を実践し、持続的な企業価値の向上を図ってまいります。

そして、私たちは、「創業100周年」を起爆剤に、次の100年へと成長を“つなぐ”べく、「ALPHA 100年宣言」を打ち出しました。グループ全社員一丸となった新たな挑戦の始まりです。

ステークホルダーの皆様には、ALPHAグループの新たな100年の歩みにご期待とご支援をお願い申し上げます。



人と物の動きが増えるほど、「安心」の欲求は高まり続ける。

社会の進化によって人と物の動きが、世界中でこの先の未来、さらに増えていくほど、安全確保、プライバシー保護、効率的で快適な移動のために、「安心」を維持したい欲求は高まり続けると当社は考えます。



人と物が動く三大アクセス要所で、ロック製品やサービスを提供。

現代社会において人と物の移動に不可欠な自動車、あらゆる人が毎日出入りをする住宅、移動した先での快適な活動を支えるロッカー。

人と物の動きを支えるそれらを、三大アクセス要所と捉えて、ロック製品やサービスを提供しています。

自動車アクセス事業



住宅アクセス事業



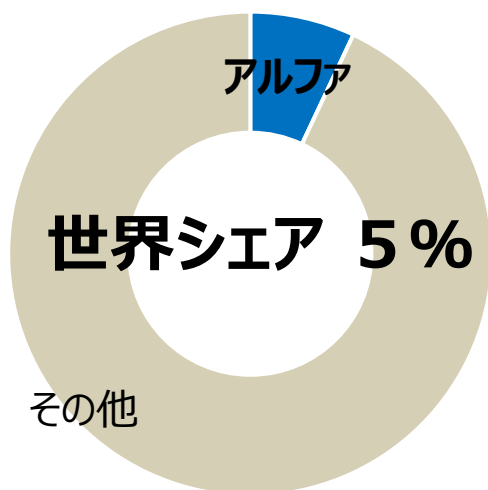
ロッカーアクセス事業



各事業の重要セグメントにおいて、国内トップクラスのシェア。

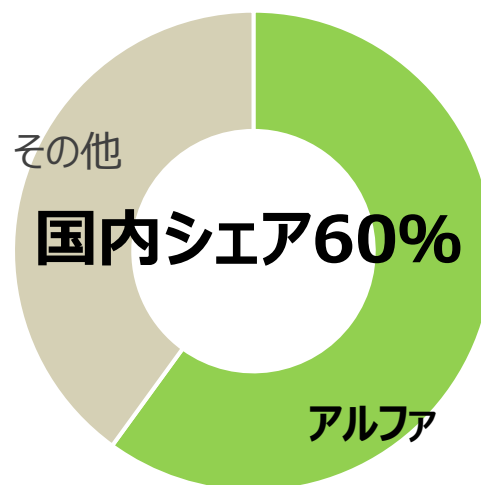
自動車アクセス事業

■ ドアハンドル・キーセット



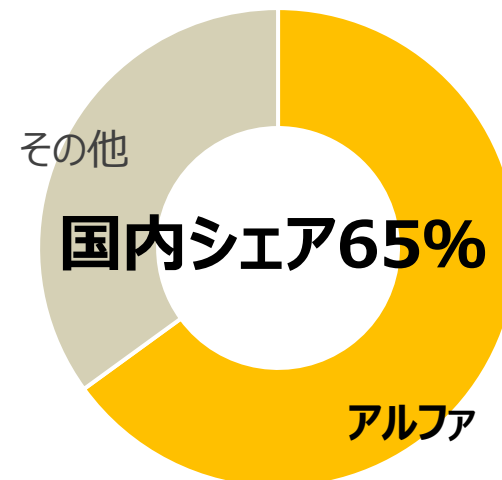
住宅アクセス事業

■ 新築住宅向け 電気錠



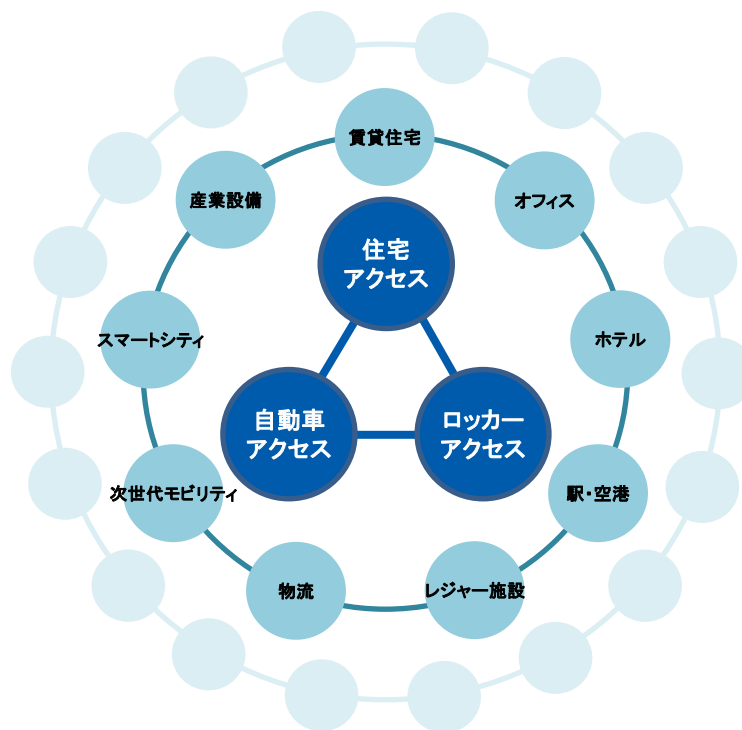
ロッカーアクセス事業

■ ロッカー
(ターミナル、レジャー、貴重品)



※ 各事業シェアは 2022年度売上高実績と市場規模による試算結果より算出

三大アクセス要所は、さらに様々なアクセス事業への拡張基点。



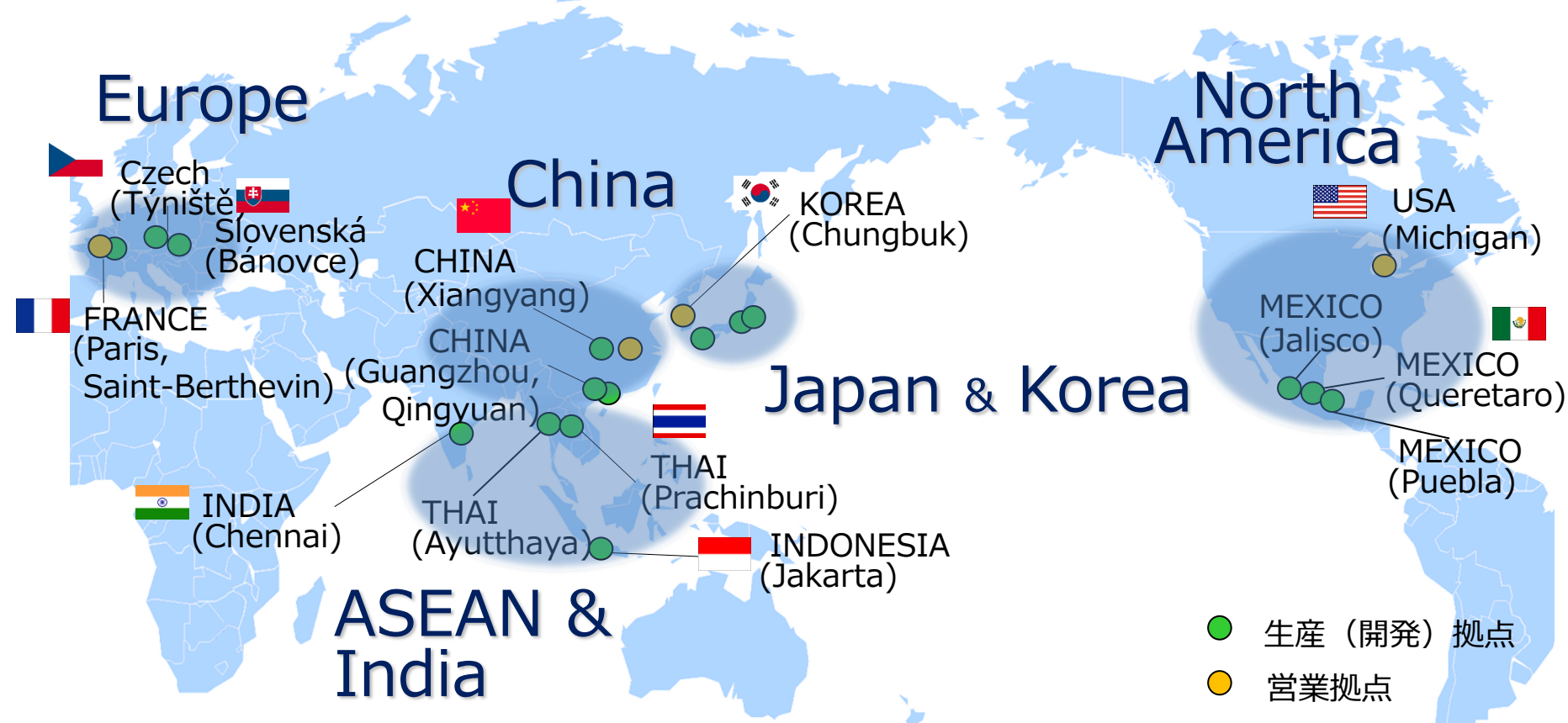
先行する自動車アクセス事業を中心に、グローバルで事業を拡大。

自動車アクセス事業

住宅アクセス事業

ロッカーアクセス事業

■ 2023年 5月現在：5 Region / 10ヵ国 17拠点（海外営業所含む）



自動車部品事業：5 Region による地産地消の推進
セキュリティ機器事業：生産拠点をタイに集約。タイから日本、東南アジア、中国へ販売

グループ全体：11カ国21拠点
 (海外拠点：10カ国17拠点)

グローバル展開が急速に拡大



グローバル進出期
 (自動車生産拠点の設立)

第1次 拡大期
 ・住設事業の進出
 ・自動車 ASEAN地域の補填

第2次 拡大期
 ・欧州地域
 生産・販売拠点の設立

人と物のアクセス要所では今後、利用行動や設備が複雑に進化。

自動車、住宅、駅・施設ロッカーでは、利用者の行動習慣や、それに応える設備・サービスの進化が、複雑さを増しながら起きている。

アクセス行動が複雑化するほど、そこで不変的に「安心」を維持することは、より難しい課題になる。

自動車アクセス事業

EV化・自動運転化

モビリティのシェアリング



住宅アクセス事業

スマート住宅化

既築住宅の活用



ロッカーアクセス事業

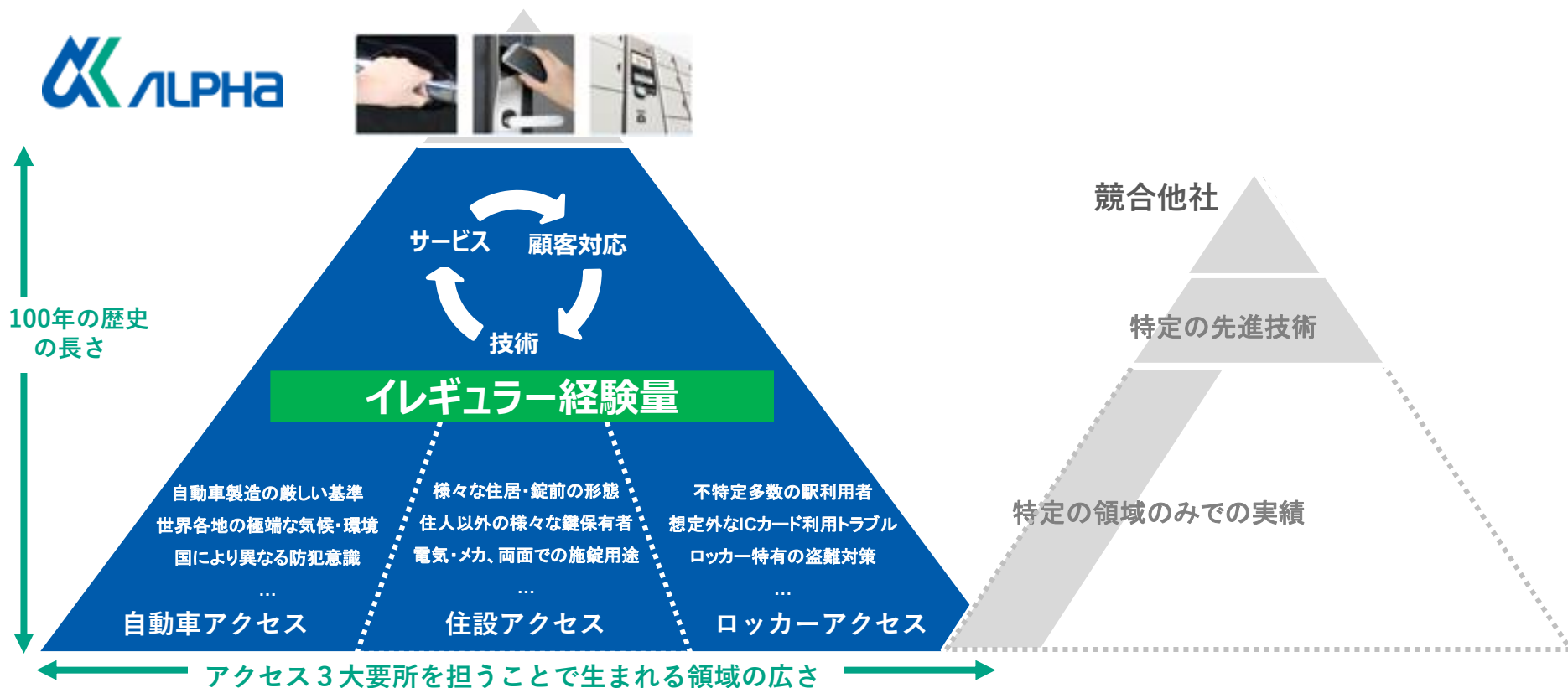
セルフ化・効率化

物流の2024年問題



3事業を通して蓄積、発揮する圧倒的な「イレギュラー経験量」

自動車、住宅、駅・施設ロッカーの環境の異なる場で、
 100年以上かけ今後も積み重ねる膨大な「イレギュラー経験量」は、他社が追随できない強み。
 また、それを3事業共通の土台にすることで、差別優位な総合事業展開が可能になる。



「イレギュラーをいくつか解決してきたか？」が安心の根幹。

アクセス要所でのロック設備における「安心」の実現には、ユーザーが触れるハード・アプリの開発だけでなく、あらゆる“イレギュラー”を発見して、どの場面でも機能を果たすための製品・サービス・顧客対応を生む繰り返しが不可欠。

自動車アクセス事業



たとえば・・・

不正な開錠に対する防犯性能向上とともに、人命に関わる事故発生時の開けやすさの両立

世界各地極寒地域から熱帯地域まで極端な気候環境や変化に対応できる耐久性能の実現

住宅アクセス事業



たとえば・・・

戸建て・集合住宅、新築、既築等様々な住居形態、また各建物、建材メーカーの様々な設置条件への対応

居住者だけでなく賃貸住宅管理会社、賃貸住宅オーナーなどの複数に跨る鍵の管理・運用を安心且つ円滑化

ロッカーアクセス事業



たとえば・・・

駅や空港で出発間近の利用者にトラブルが発生した場合に限られた時間内での迅速対応

取り忘れのお荷物を管理者を介さずロッカー経由で返却を可能にする製品仕様と運用体制

事業毎の経験を相互に活かして「安心」の品質を高められる独自体制

自動車アクセス事業

住宅アクセス事業

ロッカーアクセス事業

事業間でのサプライマネジメントの共有、開発・生産技術の交流によるアルファ独自プロセスを構築

Point 1、企画・開発から生産、アフターフォローまで一貫対応

Point 2、自動車業界で培った厳しい品質基準の適用

Point 3、車載、民生部材の各購買の協力・連携による安定的な調達の維持

- ・自社製品での発生事例をデータベース化。品質確認に活用
- ・各OEM先を通して他社製品での発生事例も収集、生産や設計に参考
- ・災害、ディスコン部品等の異常事態への対応経験

- ・住宅鍵は創業から100年以上の実績
- ・電気錠は39年以上の実績、累計販売200万台以上
- ・コールセンター窓口でエンドユーザーからの困りごとを直接把握
- ・自動車業界の厳しい品質基準経験を活かした品質確認水準

- ・日本初のコインロッカー投入から59年
- ・駅、商業施設、娯楽施設、公共施設など幅広い市場への導入実績
- ・荷物預かり、貴重品保管、荷物受け渡しなど多彩な利用シーンに対応
- ・自社による運用、保守管理、サービス対応

3事業領域からロック製品・サービスを総合的に発展させてきた実績

	自動車アクセス事業	住宅アクセス事業	ロッカーアクセス事業
主な製品	<ul style="list-style-type: none"> ● キーセット ● アウトサイドドアハンドル ● インサイドドアハンドル <p>▲ ステアリングロック ▲ 電動ステアリングロック ▲ インテリジェントキー ▲ アウトサイドドアハンドル ▲ インサイドドアハンドル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 住宅用電気錠 ■ 南京錠 ■ 住宅用メカ錠 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ターミナルロッカー ■ フリーボックス ■ レジャーロッカー
売上高	473億円	155億円	
シェア	世界市場 5%	国内 電気錠市場 60%	国内 ロッカー市場 65%
主要取引先	日産自動車、日産グループ各社、本田技研工業、フォルクスワーゲン、VWグループ各社 他	YKK AP、積水ハウス、大和ハウス、LIXIL 他	JRグループ・私鉄各社、空港関連各社、ゴルフ場運営各社、全国官公庁施設 他

2. 新中期経営計画 MP2026

世界中でこの先もニーズが高まり続けると考えられる人と物が動くための「安心」を提供する事業を展開してまいります。

アルファ ビジョン2030

Smart Access Lifeを創造する

～暮らしのそばに、いつも・・・アルファ～



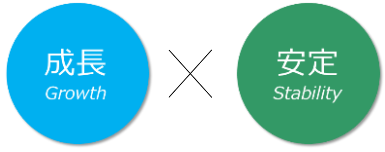
2. 新中期経営計画（MP2026）

2030長期ビジョンの達成にむけ、サステナビリティ経営を推進し、**事業リスクの最小化**と**事業機会の拡大**を実践し、**持続的な企業価値の向上**を目的に、新中期経営計画（MP2026）に取り組む

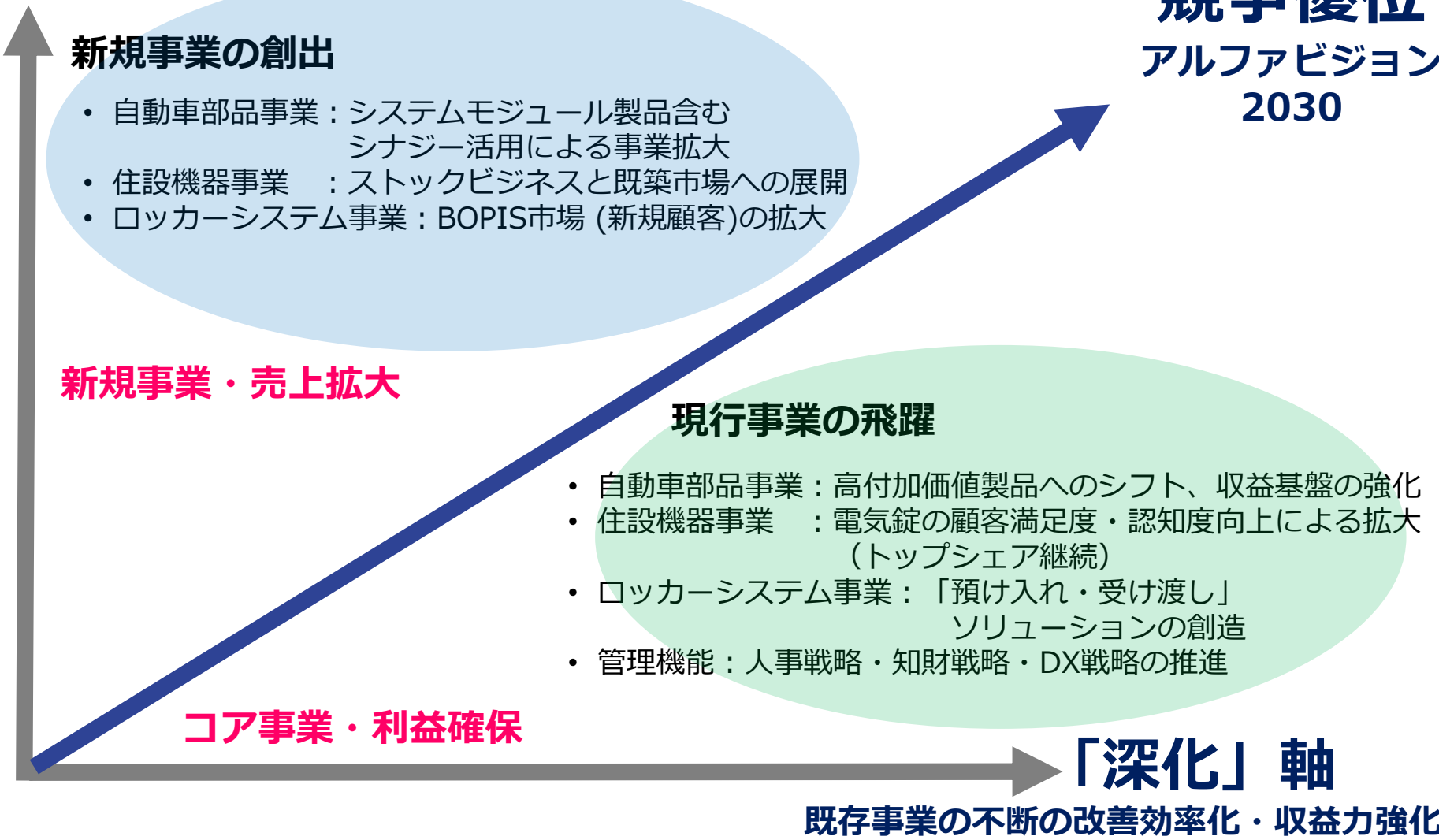
➤ 基本方針と重点活動



既存製品・既存組織の枠組みを超えた顧客価値の追求
「探索」軸



成長
競争優位
アルファビジョン
2030



➤ 基本方針 持続の取組み 「サステナビリティ経営」の推進

アルファグループは、ESGに関する課題に適切に対応するサステナビリティ経営を推進することで、**事業リスクの最小化**と**事業機会の拡大**を実践し、**持続的な企業価値の向上**を図る。

持続
Sustainment

地球にやさしいアルファづくり

モノづくり、人づくりで
脱炭素社会の実現に貢献する



- アクセスにおける、社会的課題の解決に貢献する
- 健康で働きがいのある職場づくり

安全・安心のステージを醸成する

目標達成のための土台

アルファ版DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ①スマート工場化、②開発プロセスのデジタル化、③間接業務のデジタル化

基本方針 持続の取組み 「サステナビリティ経営」の推進

サステナビリティ基本方針

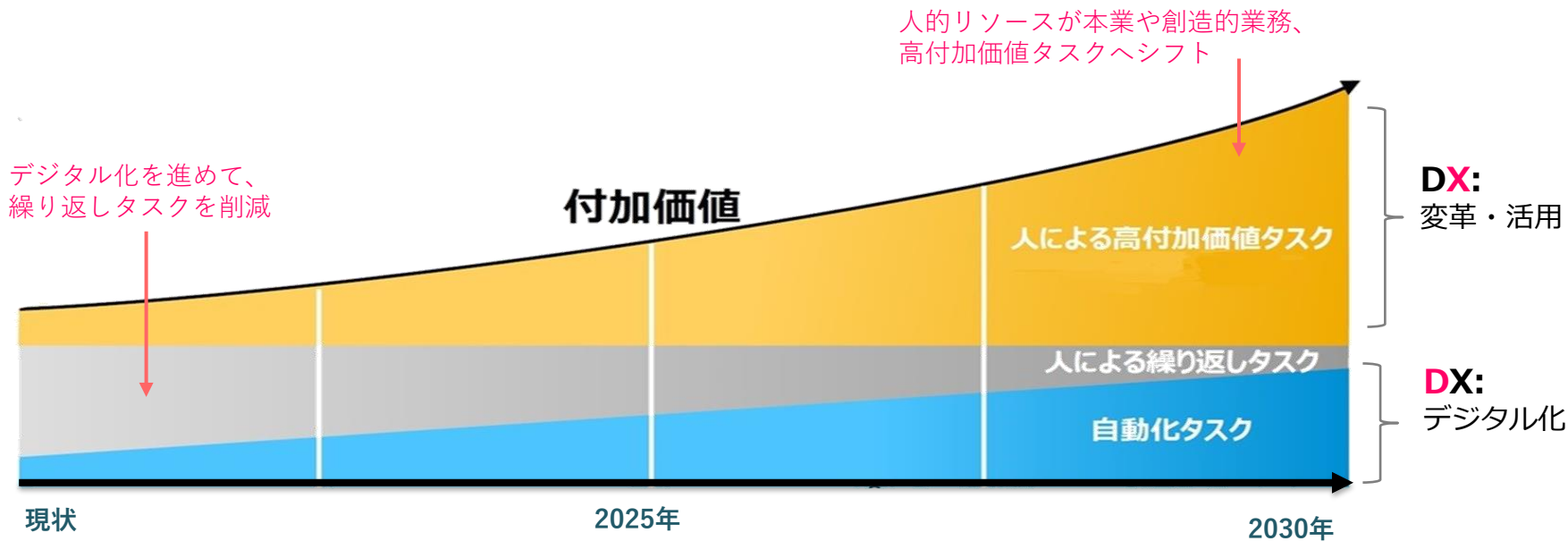
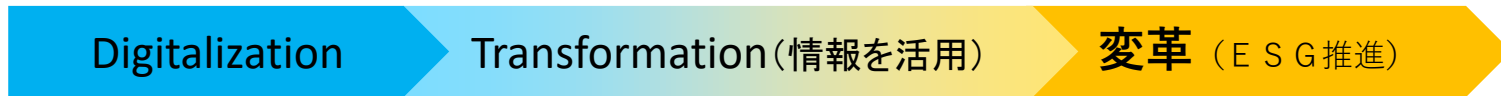
アルファグループは、グループ行動ガイドラインのもとにALPHAWAYを実現し、Environment（環境）、Social（社会）、Governance（ガバナンス）に関する課題に適切に対応するサステナビリティ経営を推進することで、事業リスクを最小化するとともに、事業機会を拡大することにより、持続的な企業価値の向上を図ります。

- 社会への影響や経営基盤の維持等の観点から、3つのマテリアリティを特定し、それぞれに対応する目標値の設定や取組みを実施しています。

	マテリアリティ	取組みテーマ	関連するSDGs
E	地球にやさしいアルファづくり	<ul style="list-style-type: none"> CO2排出量削減への取組み 	
S	① アクセスにおける、社会的課題の解決に貢献する ② 健康で働きがいのある職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心に貢献する商品開発 お客様品質目標の達成 働き方改革の推進 	
G	安全・安心のステージを醸成する	<ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメントの浸透 コンプライアンスの浸透 	

基本方針 持続の取組み 「アルファ版DX」の推進

2030年に向けた変革の戦略
 ～ESGの推進を支援するDXのプロセス～



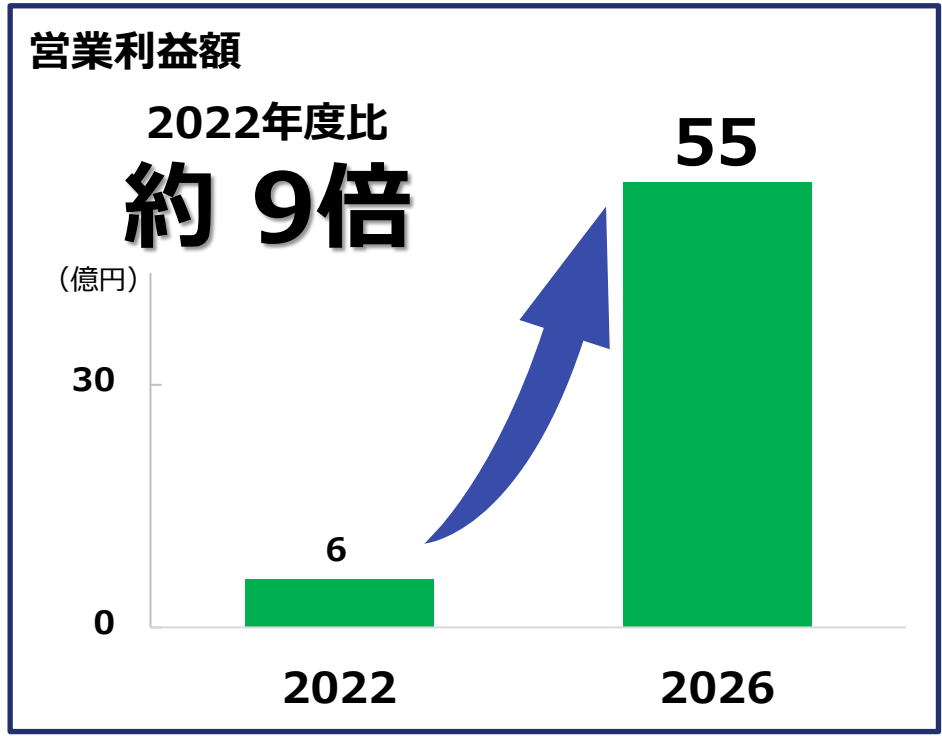
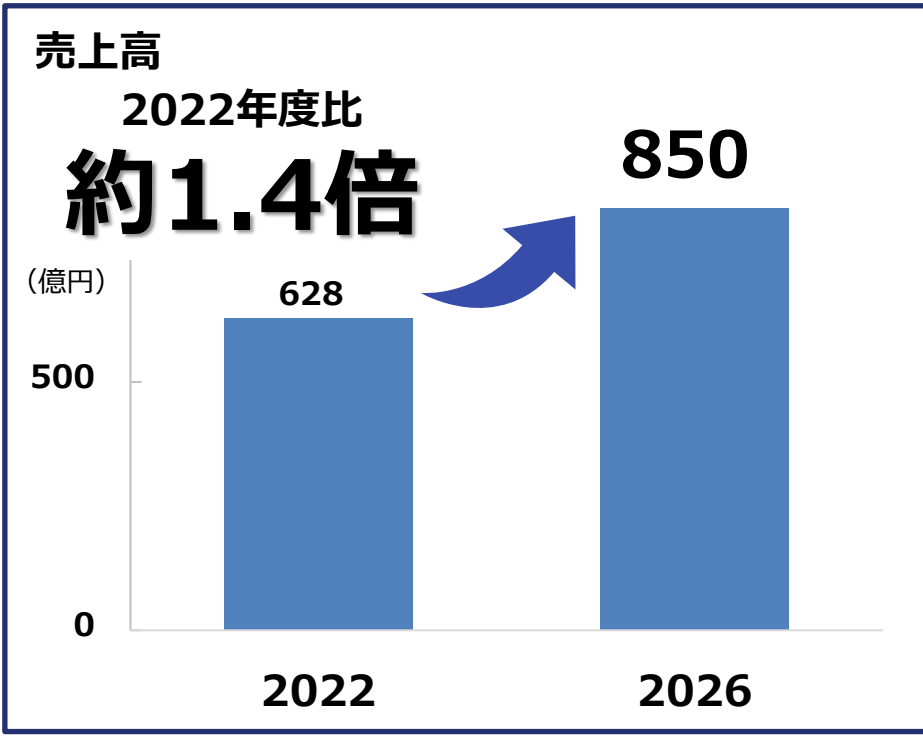
デジタル化による業務の可視化で、定量的測定を行い
 結果を意思決定に活用することで高付加価値タスクの遂行を実現

◆ 2026年度 定量目標

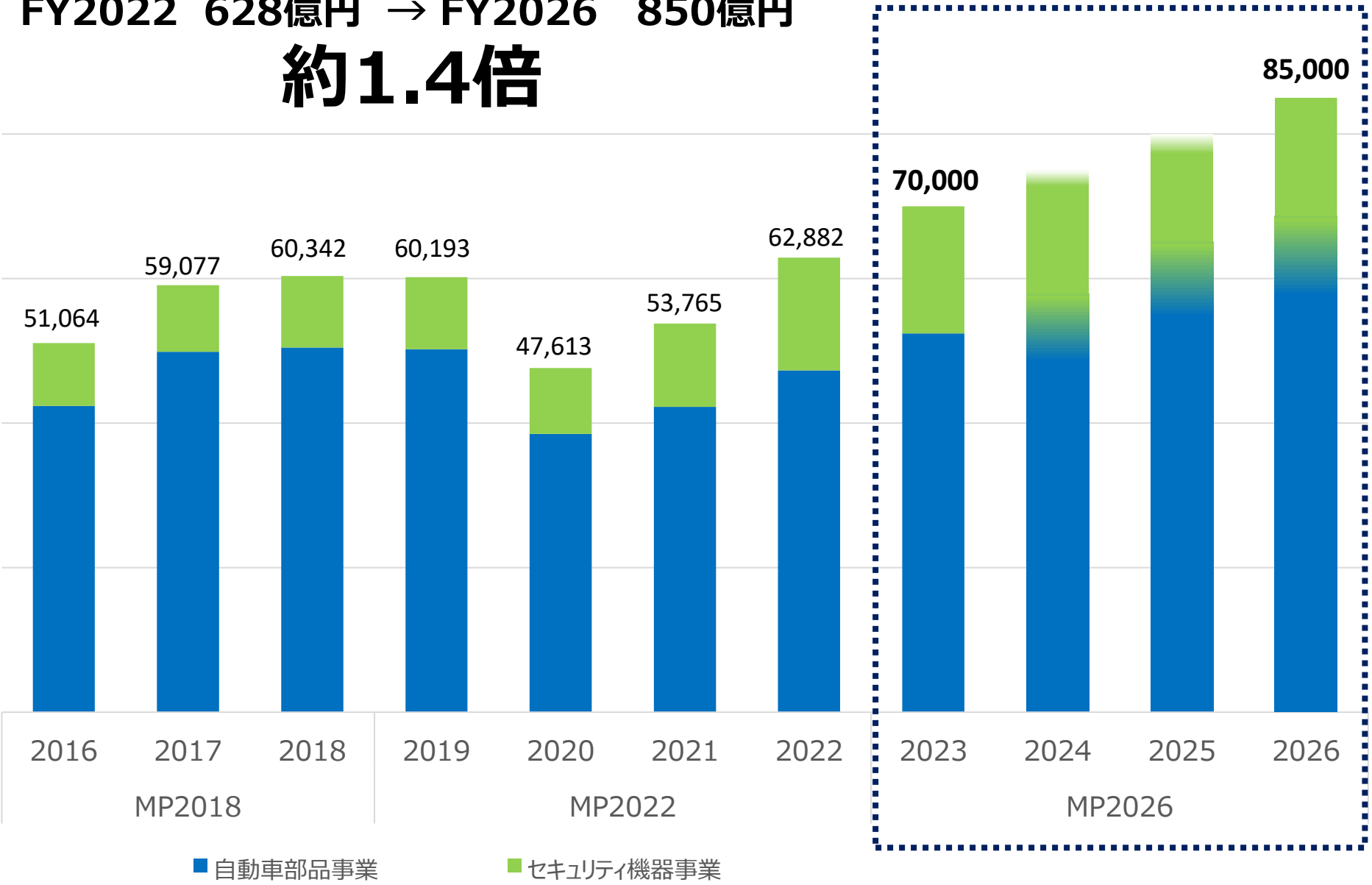
業績目標

目標とする経営指標

<p>売上高</p> <p>850億円</p>	<p>営業利益額 (率)</p> <p>55億円 (6.5%)</p>	<p>新商品売上高比率</p> <p>30%以上</p>	<p>自己資本比率</p> <p>50%</p>	<p>ROIC</p> <p>8%以上</p>
--------------------------------	--	-------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------



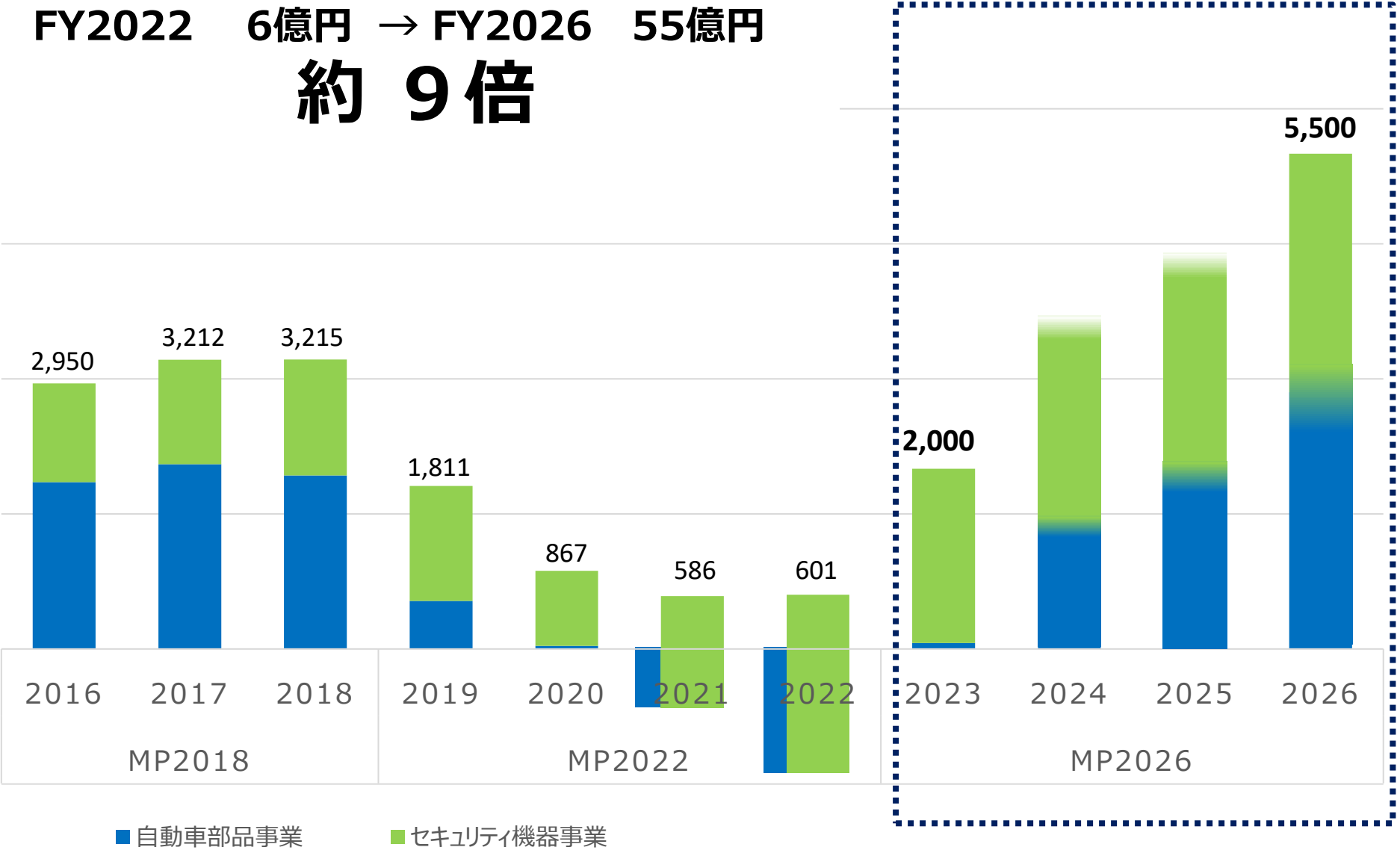
FY2022 628億円 → FY2026 850億円
約1.4倍



■ 自動車部品事業 ■ セキュリティ機器事業

(公表値レベル)

FY2022 6億円 → FY2026 55億円
約 9 倍



■ 自動車部品事業 ■ セキュリティ機器事業

自動車部品事業

再成長シナリオへの回帰

- ・高付加価値製品へのシフト
- ・協業/シナジーによる
事業拡大
- ・モノづくり革新/収益力強化

セキュリティ機器事業

住設機器

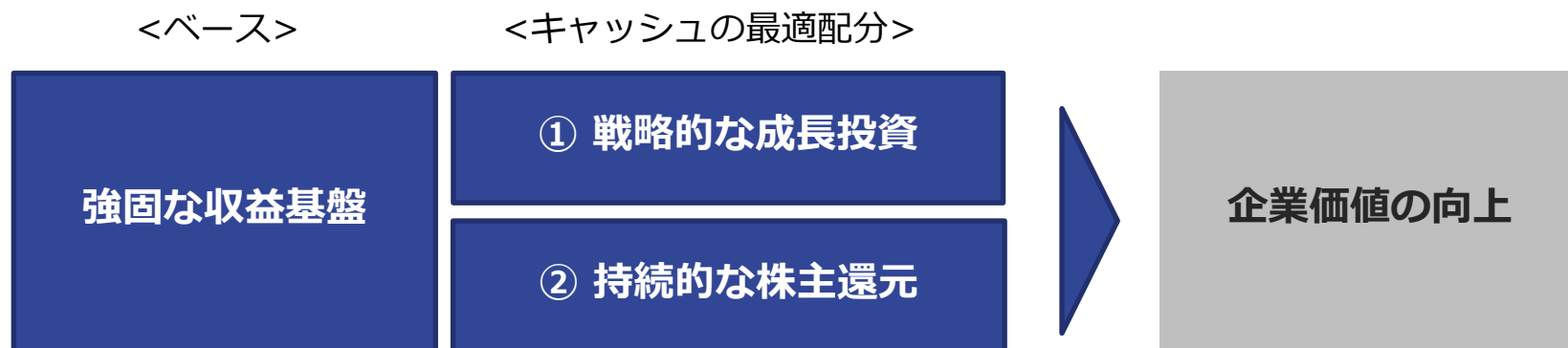
電気錠の顧客満足度と認知度向上により更なる採用拡大（トップシェア維持）

ロッカーシステム

- ・オペレーション事業拡大と市場ストックの入替強化
- ・くらしの「預かる・渡す」をデザインする新サービスの市場投入

◆ 財務戦略（MP2026キャッシュアロケーション）

当社は、成長投資・株主還元を経営の重要課題と位置づけ、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指しております。
今後も財務健全性の維持に努めながら、将来の成長投資と株主還元にキャッシュを適切に配分していく方針であります。



- ① 事業の成長と資本効率の向上につながる戦略的な成長投資
 - ・ お客様、社会への価値創造のための投資（高付加価値商品、社会・地域貢献等）
 - ・ 自らの変革のための投資（人材投資、DX投資等）
- ② 株主還元の拡充

26年度 ROIC 8%以上

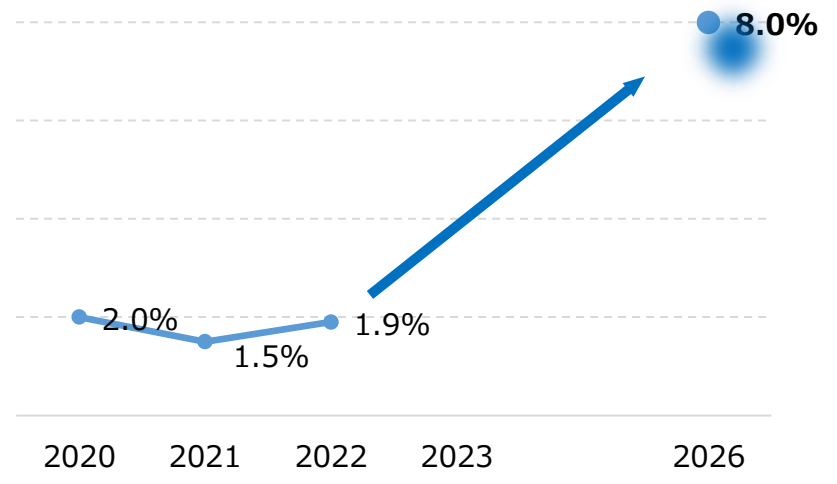
ROIC(投下資本利益率) = 税引後営業利益 ÷ 投下資本

➤ 8%達成の数値基準

営業利益48億以上
法人税率30%前後

投下資本430億
在庫回転期間45.6日
投資は減価償却費内

過去3カ年のROIC推移と目標レベル

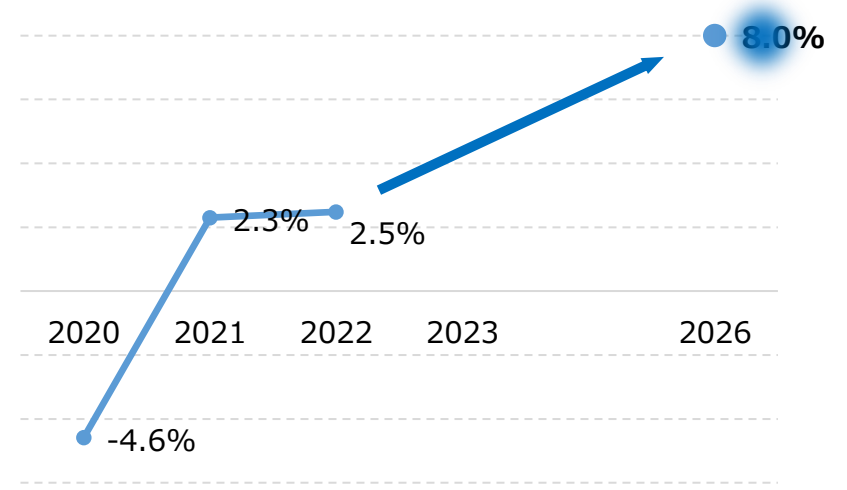


26年度 ROE 8%以上

ROE = 当期純利益 ÷ 自己資本

➤ ROE達成のための新指標として、次期中計よりROICを活用

過去3カ年のROE推移と目標レベル



今後4カ年で創出する営業CF 215億円を、おもに成長投資と株主還元へ拡充

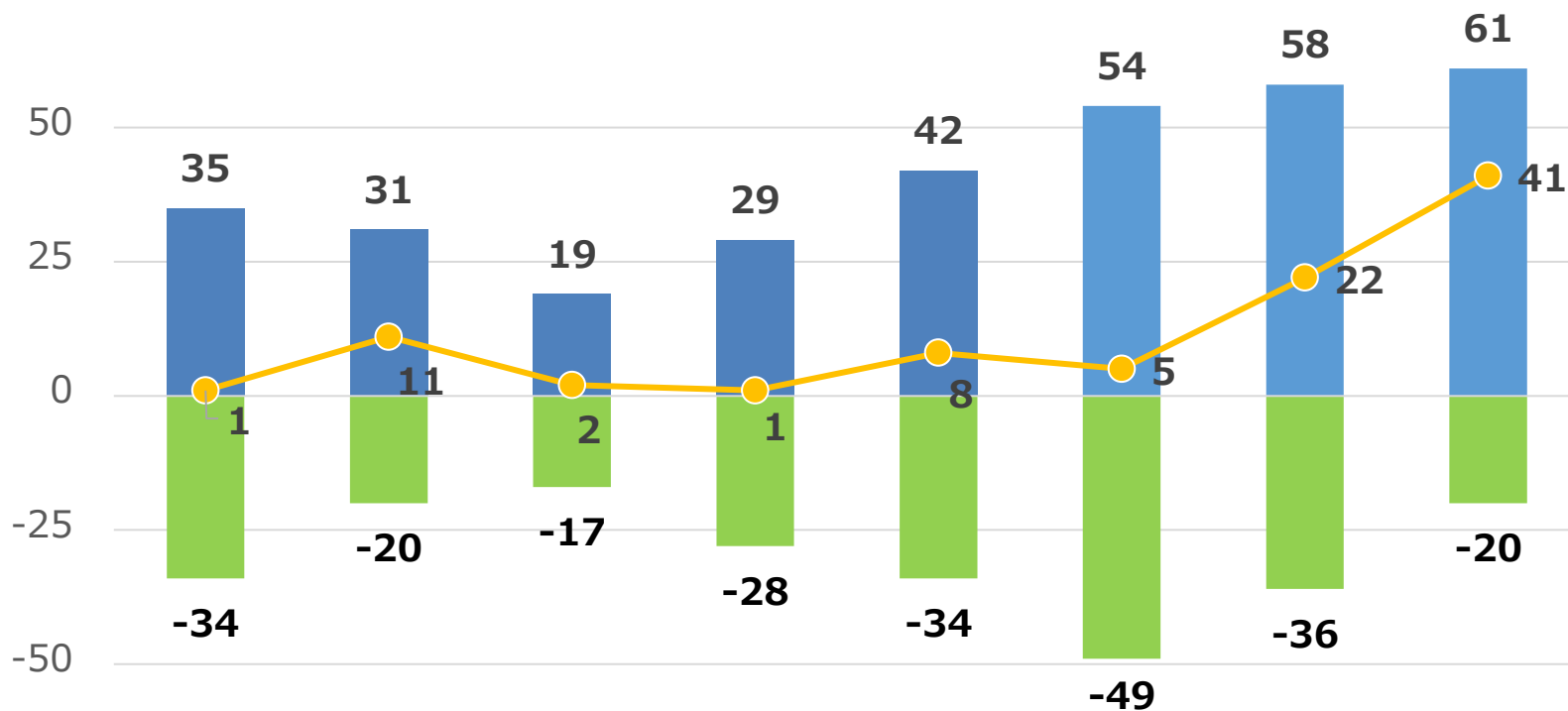
	前中計累計	MP2026（4カ年累計）
営業CF	115	215 事業戦略に基づいた 売上及び収益確保の取組みを推進
成長投資	120	165 将来の成長に向けた積極投資を実施する ・「モノから人へ」人材・DX投資 38億円 ・成長領域を特定した設備投資 100億円
株主還元	12	30 配当 連結配当性向30%を原則とし、 累進配当を目指す

➤ キャッシュフロー計画

(19-22) 投資活動CF 100億円

(23-26) 投資活動CF 139億円

単位：億円



	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
■ 営業活動によるCF	35	31	19	29	42	54	58	61
■ 投資活動によるCF	-34	-20	-17	-28	-34	-49	-36	-20
●-フリーCF	1	11	2	1	8	5	22	41

➤ 成長投資（設備、DX・人財）・減価償却計画

投資額内訳

自動車部品事業

セキュリティ機器事業

DX・人財投資

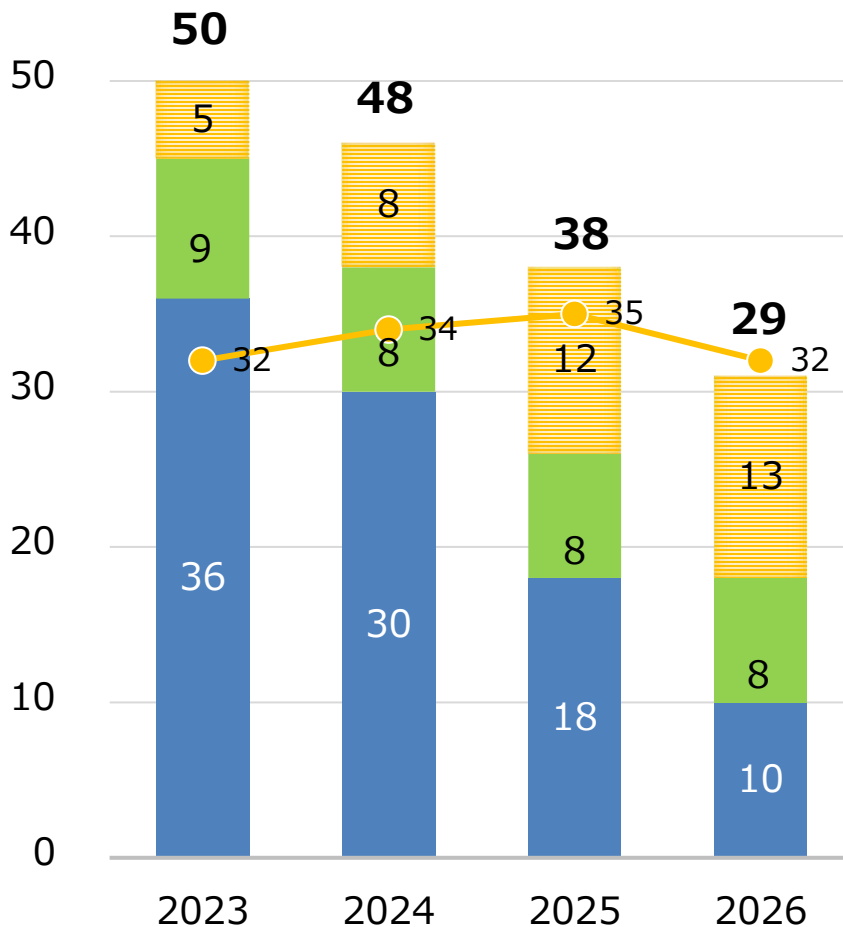
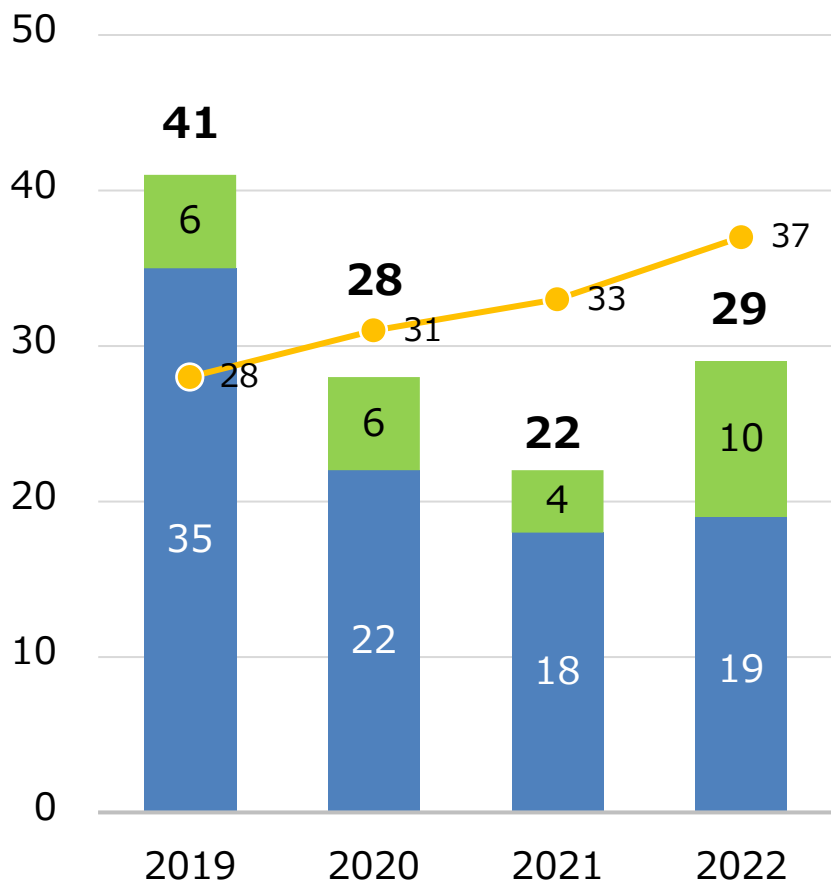
● 減価償却費

(19-22) 4年間で120億円

(23-26) 4年間で165億円

※DX・人財投資への積極的投資(38億円)

単位：億円



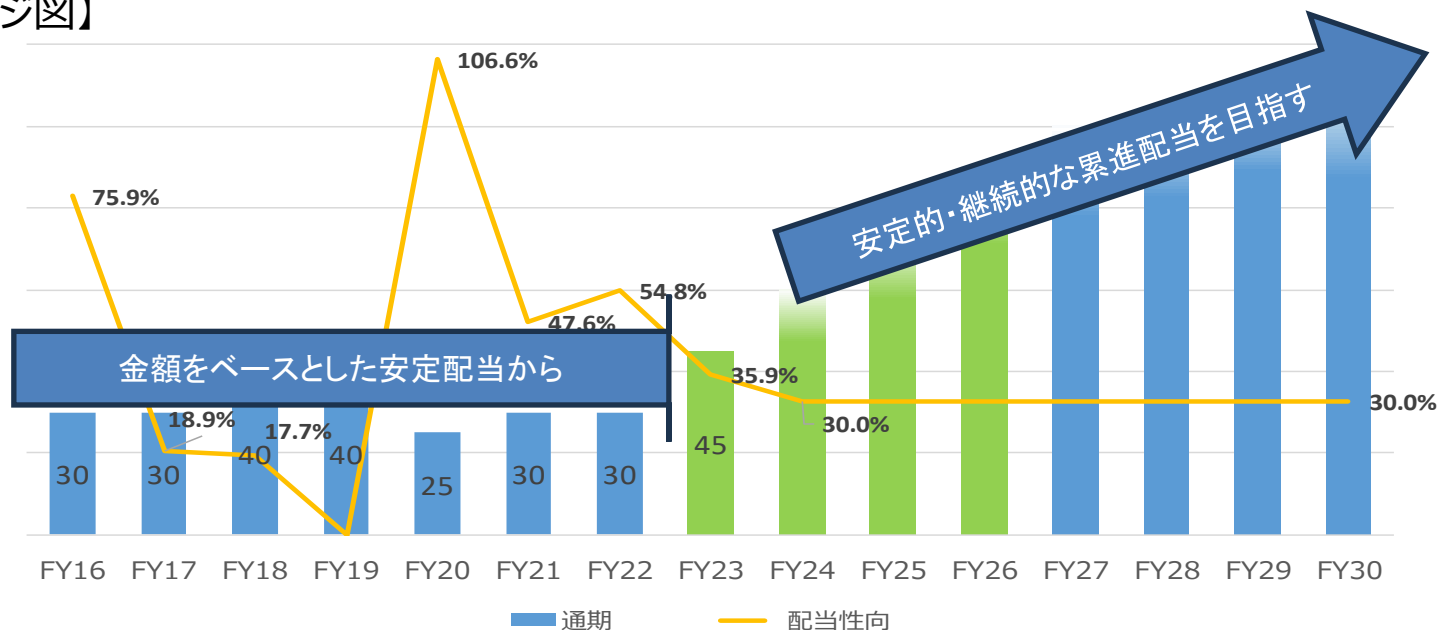
株主還元 配当方針

配当方針の見直し

見直し前：将来に事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続して実施していく。

見直し後：連結配当性向30%を原則とし、累進配当を目指します。

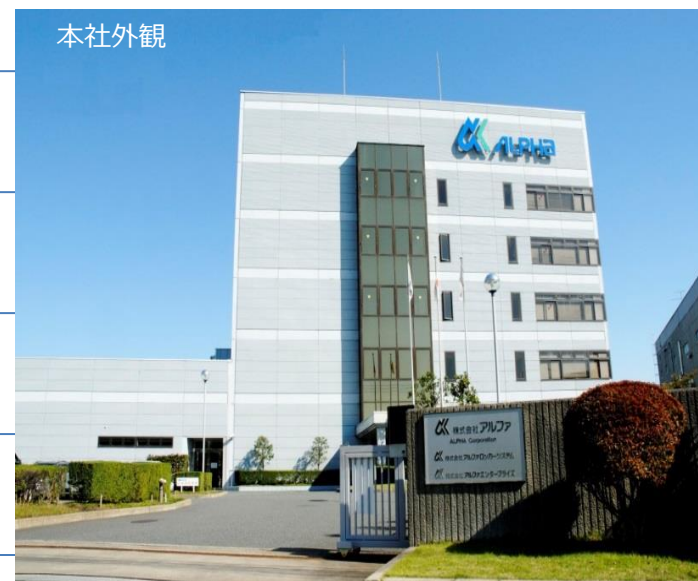
【イメージ図】



3. 会社概要

株式会社アルファ（東証スタンダード市場：証券コード：3434）

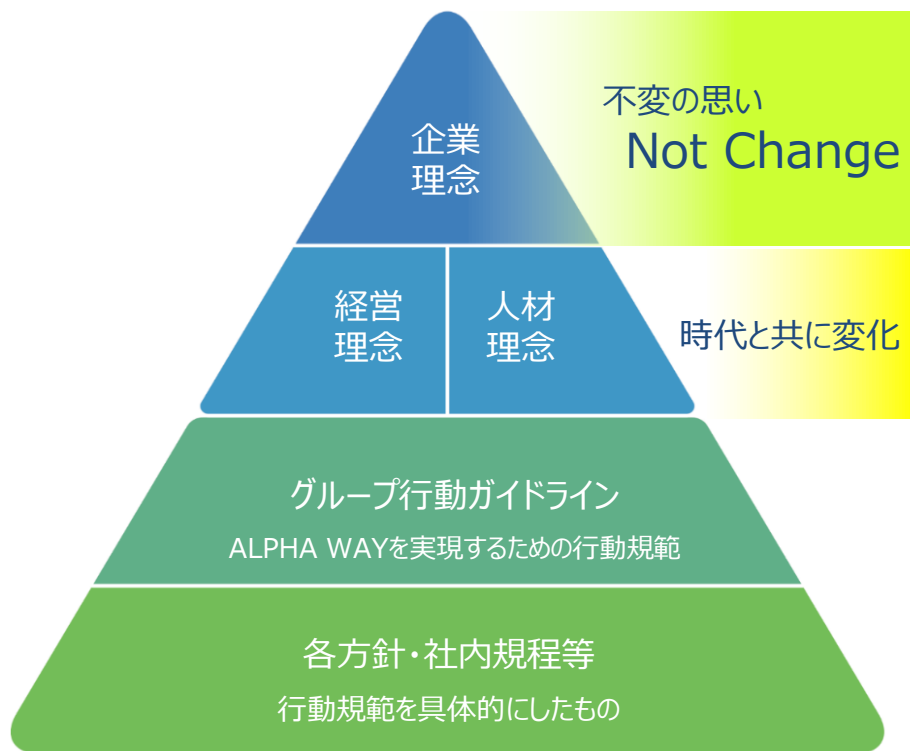
設立	1923年4月14日（創業100年）
資本金	2,760百万円
英文名	ALPHA Corporation
売上高	62,882百万円（2023年3月期）
代表者名	代表取締役社長 塚野 哲幸
従業員数	4,236名（連結） 407名（単体）（2023年3月末日）
所在地	神奈川県横浜市金沢区福浦1-6-8



海外拠点	10カ国 17拠点 アメリカ、メキシコ、韓国、中国、タイ、インド、インドネシア、チェコ、フランス、スロバキア
------	---

ALPHA WAYは、アルファのあるべき姿（ゴール）を明文化し、アルファグループの企業活動の拠り所となる企業理念・経営理念・人材理念を示したものです。

System of ALPHA WAY



企業理念

日々新たに、自らを変えていく

経営理念

個々の質を高め、お客様に喜ばれる価値を創造・提供します

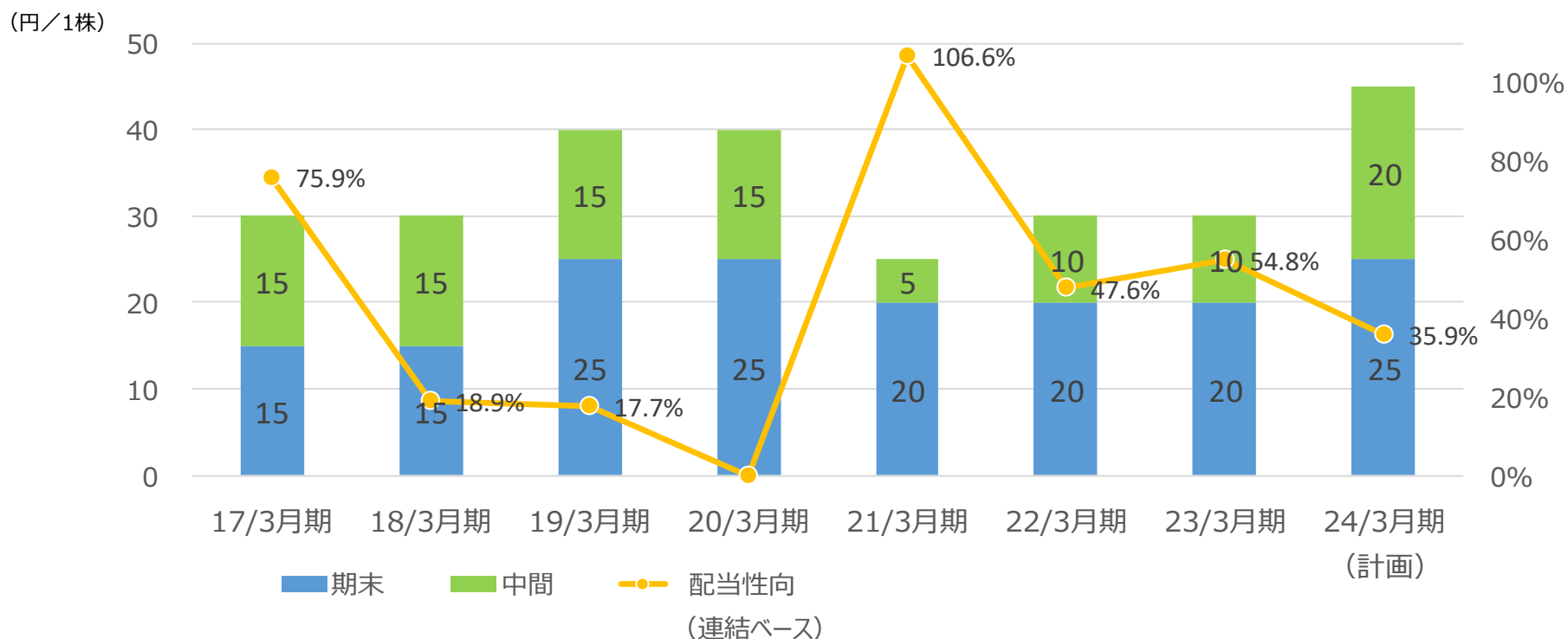
人材理念

自主自立の精神をもって自ら考え、行動し、仕事を通じて自己成長し続けます

4. 株式関連情報

配当方針：連結配当性向30%を原則とし、累進配当を目指します。

(単位:円)	17/3月期	18/3月期	19/3月期	20/3月期	21/3月期	22/3月期	23/3月期	24/3月期 (計画)
期末	15.0	15.0	25.0	25.0	20.0	20.0	20.0	25.0
中間	15.0	15.0	15.0	15.0	5.0	10.0	10.0	20.0
合計	30.0	30.0	40.0	40.0	25.0	30.0	30.0	45.0



2023年3月31日現在

◆ 株式の状況

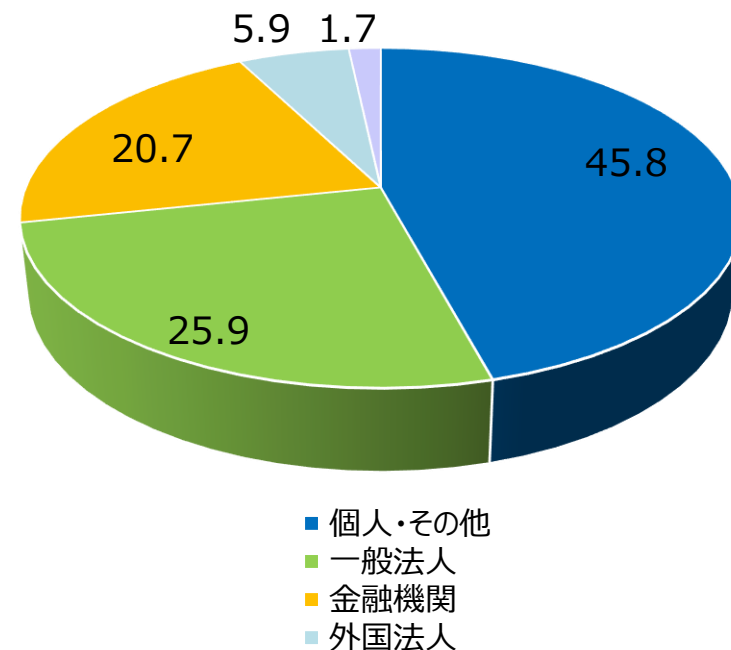
- ・発行済株式総数 10,200,000 株
- ・株主数 8,015 名

◆ 大株主（上位10社）

株主名	株式数 (千株)	持株比率
ハイレックスコーポレーション	1,710	17.9%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	458	4.8%
日産東京販売ホールディングス株式会社	379	4.0%
株式会社三井住友銀行	277	2.9%
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	249	2.6%
アルファ従業員持株会	238	2.5%
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	237	2.5%
遠藤 宏	172	1.8%
株式会社みずほ銀行	160	1.7%
株式会社りそな銀行	160	1.7%

※自己株式 617,555株を控除して計算しております。

◆ 株式分布状況 単位：%



参考資料：2019-2022中期経営計画 総括

2019－2022中期経営計画 目標値

- 売上高 600億円
- 営業利益率 1.2%以上 (7億円)

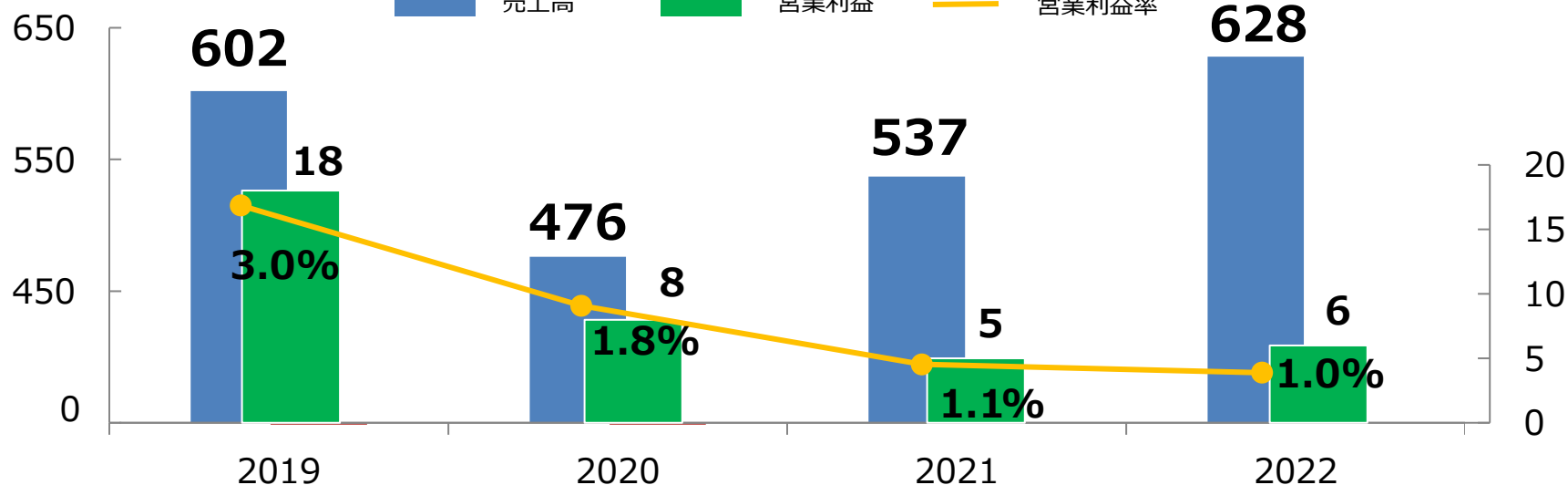
- 新商品売上高比率 25%以上
- 自己資本比率 50%以上
- ROE ※ -

※ ROEは、2022年11月10日 通期連結業績予想の修正に伴う数値目標は設定しておりません。

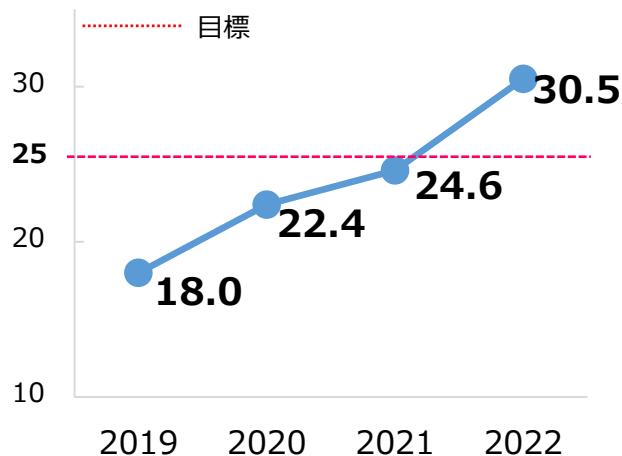
	目標	実績	差異
売上高	600億円	628億円	+28億円
営業利益率	1.2%	1.0%	▲0.2P
新商品売上高比率	25%以上	30.5%	+5.5P
自己資本比率	50.0%	48.0%	▲2.0P
ROE	-	2.5%	-

売上高・営業利益推移

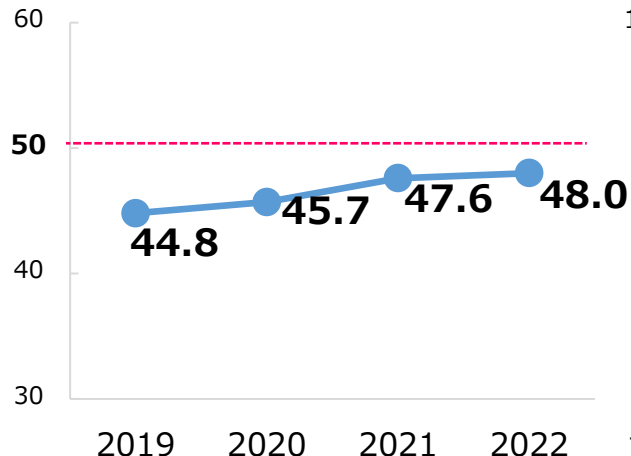
単位:億円



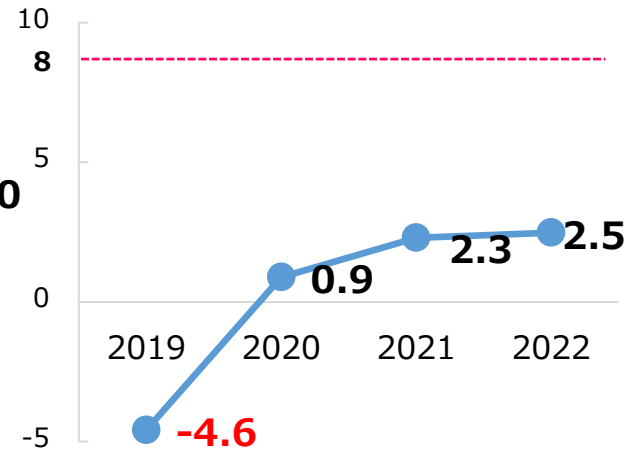
新商品売上高比率



自己資本比率

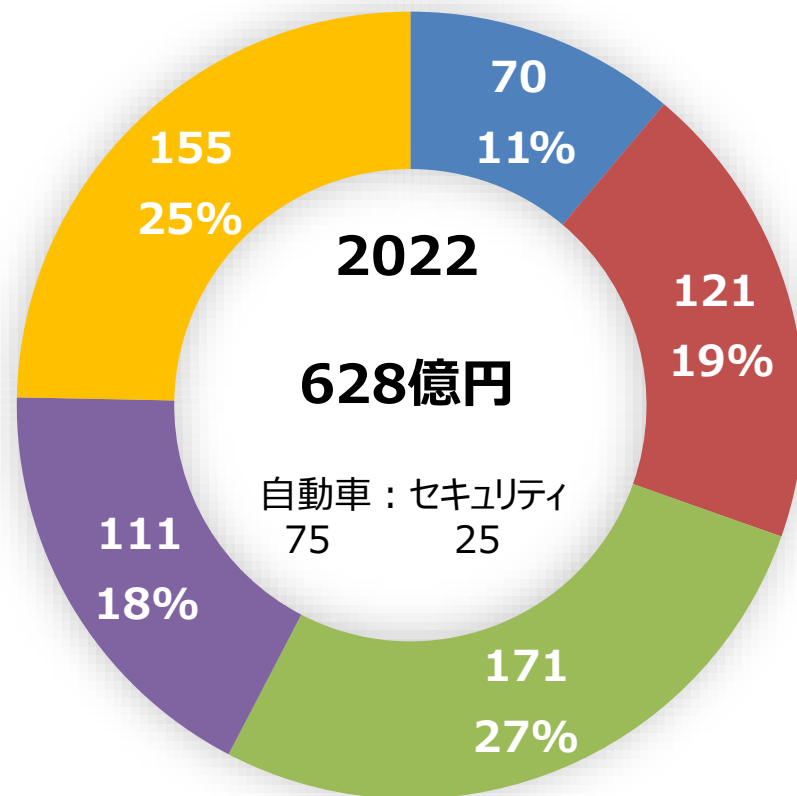
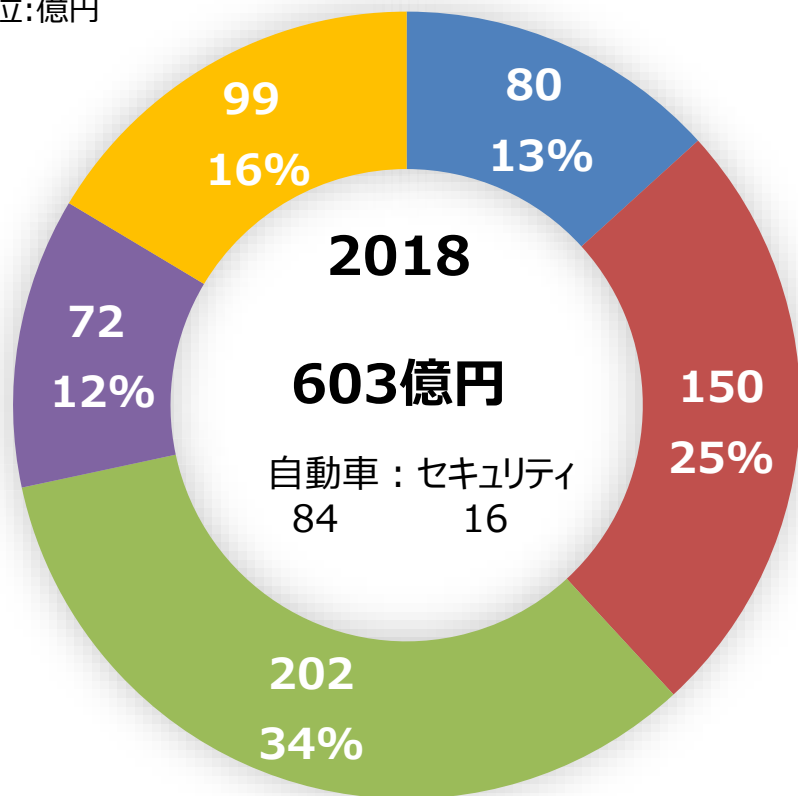


ROE



セグメント別 売上高推移

単位:億円



- ・海外売上高比率 約70%はほぼ変化なし
- ・北米、アジアセグメントが 6~7ポイント減少
- ・セキュリティセグメント 9ポイント、欧州セグメント 6ポイント増加

■ 日本自動車
 ■ 北米自動車
 ■ アジア自動車
 ■ 欧州自動車
 ■ セキュリティ機器事業

【本資料についてのご注意】

本資料に記載されている内容は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した種々の前提及び仮定に基づいたものであり、潜在的风险及び不確実性が含まれております。従いまして、今後の事業環境の変化等さまざまな要因の変化により、実際の業績は計画数値と異なる可能性があります。

【本資料に関するお問い合わせ先】

株式会社アルファ
総合企画部 企画課
電話：045-787-8401
E-MAIL：ir@kk-alpha.co.jp
ホームページ：https://www.kk-alpha.com



Innovation for Access

